

## ノロウイルス感染症の予防について

平成 22 年（2010 年）10 月 札幌市保健所

ノロウイルスが原因と考えられる集団感染や食中毒は、一年を通じて発生がみられますが、特に冬季に多く発生します。ノロウイルスは感染力が強く、社会福祉施設などの集団生活施設において、職員や入所者の間にかなり拡大した事例も認められますので、平常時からノロウイルスの感染予防に留意するとともに、患者の発生時には適切なまん延防止対策をお願いします。

〔お問い合わせ〕札幌市保健所 感染症総合対策課 6 2 2 - 5 1 9 9

### 【通常体制における留意点】

#### 標準的な感染予防の徹底

1. 手洗いを励行する。食事の前後、トイレの前後、処置や世話の前後、清掃の後、使い捨て手袋を脱いだ後に必ず手洗いをする。
2. 吐物や便を処理するときには、使い捨て手袋を着用し、廃棄できる紙などを用いて処理する。
3. 食品は、しっかりと加熱調理する。また、調理器具、設備は次亜塩素酸ナトリウム液や熱湯で消毒する。

#### 嘔吐や下痢症などの有症者の把握

1. 施設内の感染対策責任者、責任者不在時の体制等を確立し、全職員に周知する。
2. 利用者に嘔吐性嘔吐又は水様性下痢が発症した時には、直ちに感染対策責任者に報告する。
3. 職員自身が嘔吐性嘔吐又は水様性下痢を発症した時には、公休中でも責任者に報告する。
4. 利用者又は職員が、嘔吐性嘔吐又は水様性下痢を発症した場合は、下記【ノロウイルス施設内まん延防止対策】を参考に、発症者が継続するかどうかを注意深く観察する。

### 【ノロウイルス施設内まん延防止対策】

#### 手洗い

1. 手を石けんで泡立て 10 秒以上ゴシゴシこすりあわせ、ついで流水で洗い流す。（ノロウイルスにアルコール塗擦は十分な効果が期待できない。）
2. 手洗いは頻回に、標準の手順に加えて集団感染となったエリアを出て非感染エリアに行くときにも手洗いをする。
3. 利用者、職員、面会者など施設に立ち入る人全員が確実な手洗いを実施できるよう、掲示、文書配付、放送、声かけ、介助等の有効な手段をとる。

#### 発生エリアでの便や吐物の処理

1. おむつ替えのときにはマスク、使い捨て手袋を使用し、対象者ごとに手袋を取り替える。
2. 便や吐物の混ざった水はねやエアロゾルは感染源となるので注意する。
3. 便や吐物を処理する人は、使い捨てのマスク、エプロン、手袋を着用する。
4. 便や吐物で汚染された器物は、廃棄できる紙・布などで速やかに飛び散らないように静かにふき取り除去した後、消毒する。
5. 床等に広範囲に拡散した便や吐物は、廃棄できる紙・布などを用いて除去した後、消毒する。
6. 便・吐物のついた紙・布、紙おむつ等は感染性があるため、密閉容器等に速やかに廃棄する。
7. 吐物や便で汚染された壁、床、ドアノブなどの消毒は、材質が適していれば、汚染物の除去後に高濃度の次亜塩素酸ナトリウム（1000ppm：市販の塩素濃度 6 % の漂白剤を 60 倍に薄めると 1000ppm になる）を用いてふき取り消毒する。
8. 汚れたりネン類は、マスクを着用してほこりを立てないように短時間で取り扱い、洗濯は他の人のものと分けて、熱湯などで消毒する。

### 発生エリアでの清掃・消毒

1. 汚染された領域を清掃する人は、使い捨てのマスク、エプロン、手袋を着用する。
2. 患者が手を触れる箇所（トイレ、手洗いの蛇口、ドアノブ、手すりなど）は汚染される可能性が高いと考え、材質が適していれば、次亜塩素酸ナトリウム（200ppm：市販の塩素濃度6%の漂白剤を300倍に薄めると200ppmになる）を用いて、一日数回定期的に消毒する。

### 二次感染の防止

1. 症状のある人の入浴を控え、回復後も入浴順序を最後にする。
2. タオル類の共用は避ける。使用後の浴槽は消毒する。
3. 症状のある職員は出勤を控え、症状がなくなってもしばらくの間は調理や介護業務等をできるだけ避ける。
4. 感染エリアと非感染エリアの担当職員をできるかぎり区分する。
5. 症状のある人と未発症の人の交流を最小限にする。必要に応じて面会や新規入所の制限などを検討する。発症した通所者はできるだけ休んでもらう。発症者の転院、転棟は控え、やむを得ない場合は移動先での対策を行う。

## 【家庭内感染予防】

施設での患者発生時に職員から家庭内へ、また、職員の家族に嘔吐や下痢症があった時に職場に持ち込まないために、以下の点に留意する。

1. 手洗い時には、手を石けんで泡立て10秒以上ゴシゴシこすりあわせ、ついで流水で洗い流す。
2. 便や吐物で汚染されたと思われる場所は、次亜塩素酸ナトリウム（ブリーチなど）を用いるなど、特に念入りに清掃する。
3. おう吐や下痢症状のあるときには、調理や乳幼児の世話を控える。また、症状のある間は、入浴を控えタオルの共用などを避ける。

### 【参考】

#### ノロウイルスとは

ノロウイルスによる感染性胃腸炎や食中毒は、一年を通して発生するが、特に冬季に流行する。ノロウイルスは、感染力が強く、手指や食品などを介して経口で感染し、ヒトの腸管で増殖し、おう吐、下痢などを起こす。

#### 感染経路

1. 便や吐物の飛沫や便や吐物で汚染された物に触れた手指などを介して、ウイルスが口から入って感染する。
2. 汚染された二枚貝などを生または十分に加熱しないで飲食することにより感染する。

#### 潜伏期間

24～48時間（平均36時間）

#### 主症状

1. おう吐（多くは噴出性）下痢、発熱などが、突然始まることが多い。
2. 多くは1～3日で回復する。高齢者や乳幼児などが感染し、発症すると重篤になる可能性もある。

#### 治療

ノロウイルスに特異的な治療は無く、対症療法として、制吐剤、整腸剤、脱水に対する治療が中心になる。

#### 集団発生の特徴

1. 多くの場合、利用者と職員の両方において、短期間に特徴的な症状が多発する。
2. 発症率が集団の50%を超えることもある。

#### その他のウイルス特性

1. ウイルス量が少量（100未満）でも感染する。
2. アルコールなどの消毒薬に対して耐性があり、高濃度次亜塩素酸Na又は加熱による消毒が有効である。
3. 下痢等の症状がなくなっても通常1週間、長い場合は1か月程度、便中にウイルスが排泄される。
4. 獲得免疫については不明であり、再感染や再発が報告されている。